

NEWS RELEASE

2026 年 7 月 29 日

株式会社電通ライブ

新媒体「Marunouchi Street Board 60」誕生 丸の内に突如現れる、大型都市型 OOH メディアを販売 ～都市空間から“人の気持ちを動かす”新たな広告体験を創出～

株式会社電通ライブ（本社：東京都港区、代表取締役 社長執行役員：中邨 正人、以下「電通ライブ」）は、（仮称）丸の内 3－1 プロジェクト（国際ビル・帝劇ビル建替計画）における工事用仮囲いを活用した、新たな屋外広告媒体「Marunouchi Street Board 60」を、株式会社メディアデプト（本社：東京都港区、代表取締役：成澤 壮一郎）と共に販売を開始いたしました。

<イメージ図>



本媒体は、都市再開発により一時的に生まれる“仮囲い”を、単なる工事設備ではなく都市のコミュニケーションメディアとして再定義いたしました。日本有数のビジネスエリアである丸の内に、約 60 m²の大型 OOH が出現し、来街者の視線と心を捉える“人の気持ちを動かす”新しい広告体験を創出します。

■都市に現れる「一時的な壁」を、ブランドと人をつなぐ舞台へ

丸の内エリアの再開発に伴い、街の主要動線上には一定期間“仮囲い”が設置されます。

「Marunouchi Street Board 60」は、その立地特性を活かし、ブランドと来街者をつなぐ新たなコミュニケーション接点として活用する取り組みです。

常設媒体にはない「その場所に、その期間にしか存在しない」という特性が、街を行き交う人々の記憶に残る広告体験を生み出します。

■新 OOH 媒体「Marunouchi Street Board 60」について

主要動線上に突如出現する大型ビジュアルは、企業の意思決定者層を含むビジネスパーソンへ強力な存在感を示し、ブランドの世界観をダイナミックに表現。都市空間を舞台に“人の気持ちを動かす”コミュニケーションを実現します。

媒体名： Marunouchi Street Board 60

設置場所： 東京都千代田区丸の内 3-1-1

掲出面積： 約 60 m²

形態： 仮囲い活用型 OOH メディア

<特徴>

① 都市開発と共に現れる“期間限定メディア”

再開発期間中のみ掲出可能で、希少性の高い広告面。

② 丸の内というビジネス中枢ロケーション

企業決裁層を含む幅広いビジネスパーソンへのリーチが可能。

③ 都市景観との共存

仮囲いを情報発信面として活用し、街のにぎわい創出にも寄与。

今後も、電通ライブは都市開発と連動した新たな OOH ソリューションを通じて、ブランドと都市、そして人をつなぎ、“人の気持ちを動かす”体験価値の創出をさらに拡大していきます。

■電通ライブ 代表取締役 社長執行役員 中邨 正人 コメント

都市再開発の過程で生まれる“仮囲い”は、本来一時的で無機質な存在ですが、見方を変えれば、都市と人、そしてブランドをつなぐ大きな可能性を秘めた空間でもあります。「Marunouchi Street Board 60」は、その一時的な壁を、丸の内という街との接点にふさわしいコミュニケーションの舞台へと転換する取り組みです。

当社はこれまで、「LIVE□SYNC※」をはじめとするリアルな場づくりを通じて、人の気持ちが動く瞬間を数多く生み出してきました。本媒体においても、都市空間そのものを“ライブ”の場と捉え、来街者の記憶に残る体験価値を提供していきたいと考えています。

※LIVE□SYNC：電通ライブが展開する、リアルな空間を起点に体験価値を設計する考え方。

ニュースリリース： <https://www.dentsulive.co.jp/ss/2026/03/20260326.pdf>

以上

「AI時代に、人の気持ちを動かす体験で、未来の原動力をつくる」

電通ライブはイベント・スペース事業を中核に、リアル体験によるビジネス貢献と、社会全体に中長期的な価値を生み出していきます。

【本案件に関するお問い合わせ先】

株式会社メディアデプト（媒体販売・お問い合わせ窓口） msb@mediadept.co.jp

【本リリースに関するお問い合わせ先】

株式会社電通ライブ 広報 三島・佐藤 kouhou@dentsulive.co.jp
<https://www.dentsulive.co.jp/>